

「フェーズフリー等促進検討会」（第１回）議事要旨

1. 概要

○日時：令和８年６月３日（水）13：00～14：45

○場所：対面・オンライン併用（ハイブリッド形式）

○出席：奥村委員、川口委員、栗山委員、阪本委員、佐藤委員、高原委員、谷村委員
長谷川委員、矢守座長（五十音順）

2. 議事要旨

【開催要領について】

○開催要領案について委員から承認を得た。

○矢守委員を座長とすることについて、委員から承認を得た。

【主な意見】

○フェーズフリーの社会実装にあたっては、今までと何が違うのかその概念に該当するかの判断基準を明確にする必要がある。

○フェーズフリーは備えられる人だけでなく、備えが難しい人も含めた社会全体の安心・安全を実現する考え方であり、日常の価値と非常時の価値を両立させる設計が重要である。

○民間企業にとってもフェーズフリーは新たなビジネス機会となり得るものであり、官民連携や市場創出の視点が重要である。

○備蓄行動が進まない背景として「必要だが行動に移せない」層が存在している一方、日常の買い置きは既に実施されており、「それも防災」との気づきが重要。また行動定着には日常行動との結びつきによって自己効力感を高めるアプローチが重要である。

○私たちのめざすフェーズフリーは、自然との共生や防災・減災に繋がる知恵を「いつもの生活」の中に溶け込ませ、無理のない、でも確実に強くなれる仕組みを構築することである。

○日常時と非常時の仕組みが連続していないものもあるため、フェーズフリーの導入にあたっては、ボトルネックを明確化し、実効性のある仕組みを構築する必要がある。

○非常食などのなかには「備えていても使われない」ものがある。

- 行政内部においても、平常時と災害時の業務の切替えや組織間連携などの課題を認識し、そのための人材育成をすべき。
- 学校教育などの非営利分野においても、学習内容と防災（例えば算数で津波の速さを計算）を結びつけることで、日常の延長として防災力向上を図ることができる。
- 防災庁の最終目的は、死傷者・避難者の大幅な低減でありフェーズフリーはそのための手段。フェーズフリーの導入には従来施策が頭打ちである原因分析と、具体的目標及び KPI を設定する必要がある。
- 防災は「必要だから行う」段階から、「自然に行う」段階、さらに「価値を生み出す」段階へと発展させる視点が重要である。
- フェーズフリーの本質は、日常の利便性を起点として非常時の課題も解決する点にあり、多様な分野への展開が必要である。
- フェーズフリーは重要な概念であるが、単独ではなく総合戦略の一要素として位置づけすべき。
- 従来の教育、啓発、訓練型アプローチでは到達できない層への対応が必要。
- 新たな行動変容を生む社会設計が必要。